

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析と今後の課題

4月19日（火）に3年生を対象に実施した、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、今後の取組について、本校としての方針を取りまとめたのでお知らせいたします。

なお、本調査は、お子様の学力・学習状況を把握することを目的として実施していますが、本年度は実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、学習指導要領全体を網羅するものではないことから、結果については、お子様の身につけるべき学力の一部であることをご理解下さい。先日配付しました調査結果をもとに、お子様と日々の過ごし方について話す機会をおつくり下さい。そして、強みを伸ばし弱みを克服していくために、生活習慣や読書習慣、家庭学習の習慣などについても見直す機会として下さい。

学校といたしましては、この分析結果を踏まえ今後の授業や教育活動に生かしていきたいと思っております。

### 1 教科についての調査結果

各教科の正答率は、国語・数学・理科とも三重県、全国平均値を若干下回る結果となりました。

教科	結果からみられる成果（強み）と課題（弱み）	
国語	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ねの問題において無回答率が低い。</li> <li>呼びかけや問いかけの表現に直す力が高い。</li> <li>登場人物の心情や行動を話の展開から捉えることが比較的できている。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>記述式の問題の正答率が低く、無回答率も高い傾向にある。</li> <li>比喩表現の特徴を捉えることができていない。</li> <li>行書の問題の正答率が低い。</li> </ul>
数学	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>素因数分解については、タブレットの反復練習により定着が見られた。</li> <li>証明問題では、三角形の合同条件を正しく覚えて、図形からどの条件に当てはまるか選び出すことができていた。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>データを読み解く力、数学的な表現を用いて説明する力が低い。</li> <li>事象を数学的に解釈し、それを数学的に説明することを求められる問題では、読解したり、粘り強く考えたりする力が足りないことがわかった。</li> </ul>
理科	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段の学習で慣れ親しんでいる問題や図が提示されているものについては、正答率が高い。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題の読み取りが必要な問題については、正答率が低い。</li> <li>たくさん提示された資料の中から、必要な情報を読み取る力が不足している。</li> </ul>

### ◇教科の分析と今後の取組

- 教科指導の成果として、生徒質問紙の中で「授業の内容はよく分かりますか」という質問に対して、国語、数学、理科のいずれの教科においても、肯定的に回答する生徒の割合が全国平均値と比較して高く、わかりやすい授業づくりが進んでいることがうかがえる。
- 国語科では、漢字の力を定着させるための漢字テストや、漢字用ワークブックの丁寧な点検、授業での表現の特徴や工夫を捉える確認の徹底、記述の力をつけるための作文指導など、今後も時間をかけて取組を進めていく。
- 数学科では、4月から2・3年生において習熟度別少人数授業をスタートしている。基礎基本の定着を目指すコースでは、様々な問題にあたらせる中でさらに計算力をつけさせていく。実践力をつけることを目指すコースでは、記述問題全体に弱みがあることから、既習事項を活用して問題にあたり、相手に説明したりする力をさらに身に付けさせていく。両コースとも、普段の授業から自分の力で考え、粘り強く取り組む習慣を身に付けさせたい。
- 理科では、単元ごとに学習した内容がブツ切れでつながっておらず、過去に学習した単元の内容が忘れられている。今後も、毎週定期的な家庭学習を課し、1・2年時の学習内容の振り返りをさせるとともに、その内容で小テストを実施し、定着度を確認していく。



## 2 生徒質問紙における特徴的な結果

※肯定的な回答（「している」「どちらかといえばしている」の合計）を記載。

### 【よい傾向であると思われること】

質問項目	北中	全国	全国比
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	89.0	86.6	+2.4
難しいことでも失敗を恐れず挑戦していますか	68.0	67.1	+0.9
人が困っているときは進んで助けていますか	89.0	86.6	+0.4
友達と協力するのは楽しいと思いますか	95.0	93.7	+1.3
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	87.0	86.6	+0.4
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	67.0	66.6	+0.4
1・2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか（ほぼ毎日）	56.0	21.6	+34.4
1・2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていましたか	84.0	75.3	+8.7
学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（週3回以上）	23.0	17.8	+5.2

### 【家庭生活（生活習慣）について】

○多くの生徒は、早寝、早起き、朝ご飯について望ましい習慣が定着している。

●日常生活のなかで、全国よりゲーム等に占める割合が高い傾向にある。

質問項目	北中	全国	全国比
朝食を毎日食べていますか	94.0	91.9	+2.1
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか	80.0	79.9	+0.1
毎日同じくらいの時刻に起きていますか	93.0	92.2	+0.8
平日、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。（2h以上）	62.0	50.3	-11.7

### 【学習習慣（家庭学習や自主学習）について】

●家での学習習慣が十分ではなく、学習時間2時間以上の生徒の割合は、全国に比べて下回っている。

●読書習慣のない生徒が全国に比べて多くなっている。

質問項目	北中	全国	全国比
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	62.0	58.5	+3.5
学校の授業時間以外に、1日当たりの学習時間（2時間以上）	21.0	35.2	-14.2
学校の授業時間以外に、1日当たりの読書時間（30分以上）	15.0	27.3	-12.3

### ◇学校質問紙との関連などについての分析と今後の取組

- 調査の対象であった3年生については、入学時よりマスクを着用し、互いの素顔が見えない中で日々の生活を送っており、その影響は学校生活の様々な面に及んでいると考えられる。そのような状況の中ではあるが、粘り強く物事に取組んだり、友達と助け合い協力したりしながら学校生活を送っている姿は評価できる。また、個々の生徒の課題に寄り添いながらの指導や支援に努めており、そのことが相談しやすい雰囲気をつくっていると考えられる。今後も、感染症対策を十分に講じながら、生徒会主催の学校行事など、生徒が集団の中で互いの思いを出し合ったり協力し合ったりする活動を大切にしていきたい。
- タブレットの活用については進んでおり、今後、授業の中でより効果的な活用方法についてさらに検討を進めていく。
- 家庭生活（生活習慣）については、「早寝、早起き、朝ご飯」など、基本的な生活習慣が確立されているものの、日常生活の中でゲーム等に占める割合が全国と比べて高い傾向にある。また、学習習慣については、家庭での1日当たりの学習時間が全国と比べても低く、読書時間も短い傾向にある。現在、家庭学習の手引きを配付し取組をおこなっているが、与えられた宿題だけに終わってしまっている現状がある。今後、小中一貫教育の取組のひとつとして、中学校のテスト期間に合わせた「ノーメディアデー」を設定し、自学自習の習慣づくりに向けてさらに取組を進めていく。また、生徒のアンケートを2学期にも実施し、生徒の変化や実態把握に努めていく。